

はじめに

学校は、楽しい場所ではなくてはなりません。子どもたちにとって「楽しい学校」とはどんな学校なのかを考えた時、それは「友だちがたくさんいて、仲良く遊ぶことができる。」ということがまず頭に浮かぶでしょう。しかし、授業中がつまらなかつたら、きっと学校は楽しくありません。本校では、‘わからない子’を出したくないという教師の思いをもとに、子どもたちにとって「楽しい授業」「わかる授業」をめざし、基礎・基本の確実な定着を図ることから取り組んでまいりました。そして、基礎・基本の習得に終わらず、身につけた学びをもとにして、自分たちの学びや生活をよりよくしていくことができる原動力となる学力をつけることを研究してきました。

子どもたちが、授業がよくわかるようになって、基礎的な知識が身につけていく。学んだことが次の学習や生活場面に役立つ。すると、それが動機づけとなって学ぶことがもっと楽しくなるという流れをつくっていかれたら考えています。テーマである「生活を深める、豊かな学力の育成」は、子どもたち自身がこのような流れを感じながら、これからの社会の変化に対応できる能力をつけてほしいという願いで設定しました。

これまでに、学校独自の計算問題や基礎問題を作成して、習熟度別授業等を工夫し、朝の‘計算タイム’や給食前の‘はなまるタイム’の時間を設けながら、学校独自の取り組みを継続してまいりました。しかし、まだまだ課題が多くあり、本日ご参集の皆様から多くのご指導、ご助言をいただければありがたいと思います。本年度は、平成20年度より指定を受けています文部科学省・学力向上実践研究推進事業の最終年度になりますが、これからの本校の研究推進のために、ぜひ、ご示唆いただけることを願っております。

最後になりましたが、大阪大谷大学 特任教授 仲野 務先生、大阪教育大学准教授 住田 勝先生、大阪大谷大学教授 小田 浩伸先生はじめ、大阪府教育委員会、大阪府教育センター、河内長野市教育委員会の先生方にこれまでのご指導いただいたことに心よりお礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導いただきますようお願い申し上げます。

平成22年11月26日

校長 中谷 和生